



<報道発表資料>

(経済同時)

令和7年12月8日

京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室

令和7年度京都市伝統産業技術功労者表彰式 及び京都市伝統産業「未来の名匠」認定式の合同式典開催

京都市では、1200年を超える悠久の歴史の中で磨き抜かれた伝統産業の卓越した技と美を極め、永年にわたり伝統産業界を牽引してこられた方々を「京都市伝統産業技術功労者」として顕彰しています。また、今後の伝統産業界を牽引する担い手を育成するため、市内で活躍する優秀な伝統産業中堅技術者の方々を「京都市伝統産業『未来の名匠』」として認定しています。

この度、新たに11名の方々を「京都市伝統産業技術功労者」として顕彰するとともに、10名の方々を「京都市伝統産業『未来の名匠』」として認定し、表彰式及び認定式を合同開催します。

【合同式典概要】

- 日時 令和7年12月22日（月）午前10時50分～12時頃
- 場所 京都市役所 本庁舎4階 正庁の間
- 令和7年度京都市伝統産業技術功労者顕彰 被顕彰者
 - ・顕彰者 別紙1のとおり
 - ・人 数 11名
 - ・年 齢 61歳から75歳まで ※令和7年12月現在
- 令和7年度京都市伝統産業「未来の名匠」 被認定者
 - ・認定者 別紙2のとおり
 - ・人 数 10名
 - ・年 齢 39歳から56歳まで ※令和7年12月現在

● 式次第（予定）

- ・ 開会
- ・ 来賓紹介
- ・ 顕彰 11名（技術功労者）
- ・ 認定 10名（未来の名匠）
- ・ 市長式辞
- ・ 来賓祝辞
- ・ 謝辞
- ・ 閉会
- ・ 写真撮影

● 作品の展示

京都市役所本庁舎地下連絡通路において、被顕彰者及び被認定者の作品を展示します。

展示期間：令和7年12月12日（金）～12月21日（日）

<京都市伝統産業技術功労者顕彰記念作品展について>

- ・開催日 令和8年2月3日（火）～8日（日）※予定
- ・場所 京都市勧業館「みやこめっせ」地下1階
京都伝統産業ミュージアム MOCAD ギャラリー
- ・展示内容 今年度の伝統産業技術功労者の作品を展示

<京都市伝統産業未来の名匠「技の披露展」について>

- ・開催日 令和8年3月 ※予定
- ・場所 京都市勧業館「みやこめっせ」
- ・展示内容 今年度の未来の名匠認定者の作品を展示

<お問合せ先>

京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室

電話：075-222-3337



京都の伝統産業
Traditional Industries of Kyoto

令和7年度京都市伝統産業技術功労者（敬称略、順不同）

【先染・織 部門】

- ▽ 西田 満（にしだ みつる）（西陣織（製織））



綴織の職人として、ジャカードを使用した手機による紋綴織を長年製織しており、その技術に卓越している。

織物のデザインを自ら手掛けているが、長年培ってきた豊富な経験や知識があるため、図案を使わずに感覚で紋綴織やすくい織を製織することもできる。また、透かし織を独自で考案。これは、透かしがない部分は、突き出しを用いてよこ糸をたて糸に対して45°の角度で正確に挿入することで、よこ糸でたて糸が見えないように包み込み、透かし部分は突き出しを使用せずによこ糸の挿入角度を変え、たて糸が見えるように織り込むため、その部分が透けて見える織物構造になっている。（勤務先：上京区）

- ▽ 増田 泰久（ますだ やすひさ）（西陣織（表装金襷製織））



ジャカードを搭載した75cm幅の力織機での製織に長年従事しており、主に金襷（表装）の製造を行っている。金襷は、神社、寺院、人形、仏具など、多用途に使用されることから、それぞれを織り上げる技術力、織物組織や素材などの知識が必要となるため、多くの技術や知識を持ち、長年培ってきた豊富な経験もある。よこ糸として引き箔をたて糸間に織り込む場合、箔の表裏がよれて反対にならないようにしなければならないが、そうならないように織ることができる技術を有している。現在は引き箔ではなく駒箔を用いており駒箔の特徴を利用して製織を行っている。（勤務先：北区）

【染色 部門】

- ▽ 太田 穣一（おおた じょういち）（京友禅（染色補正））



京友禅における染色補正作業に長年携わり、加工工程で生じた汚れや色のずれの補正と、着用後に生じたシミや退色の補正という二つの領域で重要な役割を果たしてきた。薬品や染料を用いて色の不具合を補正し、作品の完成度を高める工程や、消費者が長く着物を愛用できるようにするための作業において高い技術を有し、汚れやシミの性質を的確に見極め、種類に応じて酸化・還元、温度や蒸気の調整、各種溶剤の使用などを組み合わせ、最適な補正を行っている。退色部分の補正にあたっては、自然で違和感のない色彩に仕上げることができる。（勤務先：中京区）

- ▽ 仁科 繁一（にしな しげかず）（京友禅（印染））



染色準備工程（地入れ等）から縫製工程まで蒸し水洗、整理を除いてすべての工程を自社で管理しており、酸性染料、反応染料、分散染料、顔料での防染、引染を行うことができ、絹、綿、ポリエステルなど様々な纖維種にも対応できるなど、纖維加工について高い技術を有している。業界の中でもいち早く、ポリエステルの引染の開発に取り組み、安定して染色加工が可能な技術を生み出している。ポリエステルの引染においては、過去の染色結果の記録を基に染色を行っており、品質管理についても高度な技術を有する。（勤務先：中京区）

▽ 早川 茂 (はやかわ しげる) (京友禅 (引染))



京友禅の中でも引染工程の技術・技法の研鑽に努めている。引染は、無地染またはぼかし染で、広い地色を染めるため、刷毛跡の染めムラが出ないように注意を払う必要があり、広い地色を均一に染め上げる技術に加え、補色を巧みに用いた深みのある色彩表現で無地染や創作的なぼかし染の作品を手掛けている。現在は、きものや帯にとどまらず、洋装向けの広幅生地を用いたストールや、麻素材のタペストリーなどの染色にも取り組み、伝統的な引染技術を現代のライフスタイルにいかしたものづくりも展開している。

(勤務先：中京区)

【諸工芸 部門】

▽ 北川 正明 (きたがわ まさあき) (京仏壇・京仏具 (木地))



木地工程は、京仏壇の細分化された最初の段階であり、全ての工程の出来栄えを左右する最も重要な技術と言え、各宗派の厨子・宮殿・須弥壇などの形状や特徴を熟知しており、寺院を含むあらゆる種類・大きさの木地を新調・修復できる技術力と知識を保持している。また、注文に応じた加工を早く美しく正確に仕上げる工夫として、必要な角度の治具（補助具）を自作し効率的に作業を行っており、加工された木地は、強度を備え分解・組立ができるようにしてあり、後の加飾工程における作業効率まで考慮した仕事をしている。(勤務先：南区)

▽ 井上 静一 (いのうえ せいいち) (京銘竹)



京銘竹を加工して材料を作り、日本で2軒しか行っていない和樽の「輪竹」の素材加工などにより、高い評価を受けている。昔ながらの技法を重んじ、胡麻竹を扱う工程では、伝統技法の「火あぶり」で油抜きを行っており、丸竹を割る加工も、手作業で竹の枝目を取り除きながら均一に竹を割るなど、丁寧で着実な仕事にこだわっており、その妥協のない姿勢に信頼も厚い。最盛期には1日50本もの丸竹を加工し、300～400枚の材料を生産する、仕事の速さにも定評がある。(勤務先：右京区)

▽ 久保 千晶 (くぼ ちあき) (工芸菓子)



生菓子全般の製作技術を習得しており、年4回自社から発行される商品パンフレットの表紙を飾る菓子を製造していた。工芸菓子については、生菓子を製造する傍ら修行に励み、伊勢菓子博大博覧会にて出品した作品「春秋」が農林水産大臣賞を受賞した。工芸菓子の制作にあたっては、下絵を作るところから自分で行い、各種細部の色合いや薄さを調節してパーツを組み合わせ、全体のバランスを考えて制作している。作品の中には、半年もの制作期間がかかる大作もあり、写実的になりすぎず、お菓子らしさや可愛らしさを残すこと大切にしている。(勤務先：上京区)

▽ 中村 英明 (なかむら ひであき) (造園)



京都の伝統的な技法である、混み合っている枝や葉を切り、風通しや日当たりを良くするとともに、葉に当たる露を真下に落とす技法である、ちらし透かしや、枝を適正な方向に曲げて成長をしやすいよう整える整枝剪定、大型樹木の移植等を得意としており、主に個人の家の庭の修繕・作庭を手掛けていて、依頼主の思いを汲んだ修繕や、施主の理想のイメージをもとに鳥観図を作成し、対話を繰り返して、施主が満足する作庭を行うことで高い評価を得ている。
(勤務地：右京区)

【食品 部門】

▽ 宮脇 巖 (みやわき いわお) (京菓子)



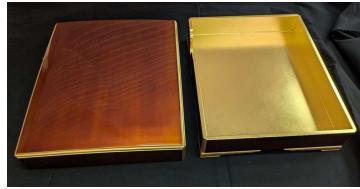
てんぷらと呼ばれる技術で作る半生菓子「松露」作りに定評があり、この技術は経験によって培われた微妙な調整が必要なため、機械生産ではなく手作業においてこそ真価が発揮される。こうした技術もさることながら、製作された「松露」は、見た目の美しさ、華やかさにも目を奪われる仕上がりで、伝統的な技術の継承だけでなく、「松露」を現代的に解釈し、四季にあわせた素材やテーマで多様な工夫をしてきた情熱や努力が、芸術的とも言える美を作り出している。(勤務先：中京区)

▽ 北尾 康幸 (きたお やすゆき) (京漬物)



京都三大漬物の一つである千枚漬の味を守り続け、下漬については、塩のみを用いて野菜（カブラ）のアクを十分に抜き、野菜の状態を見ながら本漬の調整を行うことで、変わらぬ高品質の商品に仕上げている。素材の原料が生ものであることや、気候による仕込み環境の変化に左右されることなく、高品質を維持できるのは、長年培った高度な技術力の賜物である。素材を第一に、決まった地域の聖護院カブラを使用し、素材の良さを最大限に引き出す仕込みを行っている。(勤務先：右京区)

令和7年度京都市伝統産業「未来の名匠」認定者（敬称略、順不同）



氏名：山田 雅己（やまだ まさみ）
業種：京仏壇・京仏具
勤務先：株式会社金箔押山村（山科区）
作品名：御文書箱（一帖入れ）
(ごぶんしょはこ（いっしょいれ）)



氏名：八木 美詠子（やぎ みえこ）
業種：京焼・清水焼
勤務先：（東山区）
作品名：角型花器「桜」（かくがたかき さくら）



氏名：佐治 幹生（さじ みきお）
業種：京人形
勤務先：工房 武久（上京区）
作品名：08号 置SET兜飾り
(08ごう たたみせつとかぶとかざり)



氏名：高木 陽介（たかぎ ようすけ）
業種：京人形
勤務先：京都甲冑株式会社（山科区）
作品名：飾兜「萌黄糸中梶子緘」
(かざりかぶと「もえぎいとなかくちなしおどし」)



氏名：前田 倫明（まえだ みちあき）
業種：京表具
勤務先：前田秀曉堂（中京区）
作品名：日本画畠中光享先生「陀利阿」
(にほんがはたなかこうきょうせんせい「だりあ」)



氏名：橋本 勝己（はしもと かつみ）
業種：京印章
勤務先：橋本印房（右京区）
作品名：地方創生文化庁京都移転
(ちほうそうせいぶんかちようきょうといてん)



氏名：兼森 清（かねもり きよし）

業種：清酒

勤務先：月桂冠株式会社大手一号蔵（伏見区）

作品名：伝匠月桂冠大吟醸
(でんしょうげつけいかんだいぎんじょう)



氏名：三枝 良（さいぐさ りょう）

業種：伝統建築

勤務先：土壁工房鈴屋（右京区）

作品名：幻想の土灯り（げんそうのつちあかり）

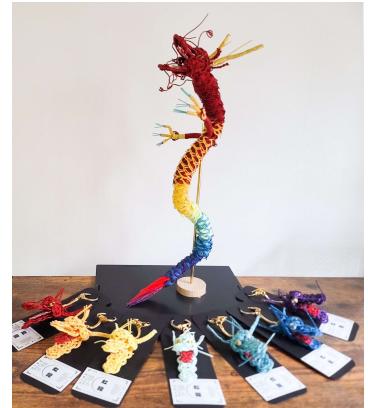


氏名：辻野 憲昭（つじの のりあき）

業種：京和傘

勤務先：有限会社辻倉（中京区）

作品名：道中傘（どうちゅうがさ）



氏名：新城 絵美（しんじょう えみ）

業種：結納飾・水引工芸

勤務先：結丸（中京区）

作品名：虹龍（にじりゅう）